多治見の美濃焼ショップ 第29回 株式会社井澤コーポレーション

代表取締役 井澤秀哉 住 所 多治見市旭ヶ丘10-6 TEL 0572-27-5635

多治見美濃焼卸センターは多治見市北部にあり昭和50年に卸商社が集まってできた団地です。JR多治見駅より車で約15分、中央自動車道多治見ICより車で約5分の所にあり、その団地中央部に井澤コーポレーションの店舗(写真1)と事務所があります。



写真1

白を基調としたお洒落な会社の創業は

「創業は明治33年(1900)に初代の井澤艶 五郎が市内豊岡町にて陶磁器卸商業家を始 めて以来121年となります、明治時代は商 品に名前を書いた印物の徳利(高田・小名 田)や盃(市之倉)を東北・北海道を中心に 販売していたと聞いています。大正時代に なると更に販路を広げ全国に向け商いをし ていました。」

着実に基盤を築かれていますが昭和戦後の 展開と方針は

「戦後いち早く取り組んだものとして和食器で郵便局のダイレクトによる販売など新 しい試みを手掛けました。

昭和50年にここに移り、現在は生活用品として美濃の食器が食を生かすための器であることを提案していきたいと思っています。」



店舗ショールーム

店内には磁器・陶器の和食器を中心に温かみのある商品が並べられています、また取引先の小売店さんに求められる若者向けも商品開発してみえます



お客さんとの対話を大切にされているそうで、東京南青山に直営店「at kiln」を持ち、その中に陶芸教室も開設して今年で6年目とのこと、日頃から土に触れることの少ない都会の人にも楽しんでいただきたいと企画されているようです。

美濃の地に生きる人として今後の抱負は

「他の地区に無いもので美 濃の特色を生かす財産として 現在セラミックバレー構想に 取り組んでいます。セラミッ



ク(陶磁器・タイル・碍子・玩具・半導体 基板・・・など)の歴史と技術を個々でなく 皆さんと共に学び集約して世界にアピール 出来る様、発進したいと思っています。」

現在ショールームでの販売はおこなって いませんが、小売対応準備中です。

リポーター 髙木典利

組合だより

Tajimi Pottery Wholesalers' Co-operative Association

¥多治見陶磁器卸商業協同組合●2021年3月号No.596

多治見市明治町2丁目4番地〒507-0841 電話0572(25)5588(代)FAX0572(25)388 8 E-mail:tatosho@ivy.ocn.ne.jp SINCE1894 創立明治27年

2度目の緊急事態宣言の影響

広報委員会 加藤貞美

2度目の緊急事態宣言により自社を取巻く取引先、仕入先の状況は1月から業務用は極端に悪化しており回復の兆しが見えない状況である反面、ネット関係や雑貨は1月とは思えない売上になっており注残で一杯になっております。全体として見れば芳しくない状況が続いております。

昨年始まった「Go To Eat」の影響により 客足が伸び続け前年同時期の90%弱まで回復 してきた飲食店でありましたが、今年に入り状 況が一変しました。

飲食店に予約や顧客管理のシステムを提供している東京のIT企業「トレタ」によると、緊急事態宣言初日の1月8日からの5週間、トレタのシステムを使う1都3県の飲食店を訪れた客は昨年対比70%強減少、特に午後8時以降は90%強減少しています。

また12月の最終週の5日間(12月25~29日)の客数平均と緊急事態宣言後の5日間(1月8~12日)の時間ごとの比較では、17時41%減少、18時71%減少、19時93%減少、20時92%減少、21時92%減少、22時95%減少、23時95%減少となっています。

業務用が極端に悪化していることを裏付けています。

毎年東京ドームで行われていたテーブルウェア・フェスティバルがオンラインとなりました。成果・売上・評判はどうであったのか、800円の入場料でどれだけの人数がアクセスし購買があったのか。検証し今後どうしていくのか対応が問われます。詳細な結果が待たれるところですが、取引先等に聞いてみたところアクセスしにくい、ぱっとしない、わかりにくい、成果がないなど、悪い意見が多かった印象です。

また国際ホテルレストランショーの入場者や 評判、成果はどうであったのか。コロナ禍でホ テルレストランがダメージを受けている状況下、 取引先の数社は行くことが禁止になっており、 特に入場者がどうであったのか成果が気にかか るところです。

毎年2月はテーブルウエア・フェスティバルと 国際ホテルレストランショーに出向き、新商品 や得意先の出展企業を訪問し情報交換を行って おりましたが、今回は緊急事態宣言で出張に行き ませんでした。来年はテーブルウエア・フェス ティバルが東京ドームで開催され、国際ホテルレ ストランショーも出展者や来場者が戻り例年通 りの状態で開催できることを期待しています。

新型コロナウイルスの感染の一番の要因は飲食の場面であり、飲食はマスクをはずすため飛 沫が飛んでしまします。

新型コロナウイルスの感染者が多治見で身近になった状況から、1月は、ほぼ毎日感染者が出ている状況になり、現在は少なくなってきております。自分も感染しているかもしれない、人にうつさないようにするのと同時に人から感染しないよう対策をとり、更に感染者を少なくしていく段階にきていると考えます。

日本国内でも緊急事態宣言で飲食の機会が少なくなり感染者が少なくなっておりこのまま減少し続け、緊急事態宣言が解除された後も注意 し感染者が増加しないように願います。

昨年5月の組合だよりに「疫学を少し学んだ 見解と現在の国の対応を見ていると夏までは現 状が続き秋口から状況が少し良くなり一進一退 を繰返し1年はかかるだろうと想定しておりま す」と書かせていただきほぼ想定通りになって おります。

しかしながら「1年はかかるだろうと想定しております」が1年では治まらず大幅に延びる可能性が高くなってきており、新型コロナウイルスの感染状況しだいでは東京オリンピック・パラリンピックの開催も危うくなっております。

想定通り1年で終息し5月で治まり明るい方 向へ向かうことを期待しております。

テーブルウエア・フェスティバル 2021 Online 出展結果ほか報告

東京ドーム・テーブルウエアフェスティバル オンライン開催の結果について、当組合からの 出展者に聞いてみました。

今回の出展の成果については、あまりなかったという方が多かったようです。販売に関しては各社のECサイトもしくは自社紹介ページからの問い合わせなどによる受注販売でしたが、数万円から多いところで20~30万円程度のようでした。

期間中のお客様からのアクセスは1日に数百件あった、また通常多くて100件程度だったのが初日に8000件のアクセスがありその後も会期中は千件以上で推移したとの報告もありました。但し、実際に販売まで結びつくものではなかったようです。

楽天などの販売サイトを使用した場合は、 テーブルウエア・フェスティバルのサイトから のお客様か直接販売サイトに来られたお客様か の区別が出来ないため出展の成果が見えにくい という声が聞かれました。あまり効果は無かっ たように感じますとの報告もあり、こうしたサ イトを活用された方の情報を集約すると、販売 サイトでの売上が会期中に目に見えて増えたと かいうことは無かったようでした。

一方でオンラインショップが無い出展者から、チャットでの問い合わせから販売に結びついた事例やインスタグラムから販売へ繋がった事例などの報告もありましたが、皆様の意見を総合すると、ECサイトへの訪問からそれを販売まで結びつけることの難しさを感じたというのが共通した感想のようでした。

しかしながら今後こうしたオンラインでの販売を強化していくことの必要性・重要性を感じているという点も出展者に共通するところのようです。

テーブルウエア・フェスティバル2021 Onlineページの構成等に関する意見として あったのは、

- お客様からログインがなかなか出来なかった との声が多数有りました。
- ・トップページから→多治見ブース→各出展者 ページ→販売サイト→商品検索、と移動して 欲しい商品を探すのは困難だと感じた。
- サイト内のわかりにくさもあり、オンライン

店舗を見て回り購入にまでたどり着くのは大 変そう。

サイト全体の構成は実際の東京ドーム会場と 同様、二つの特集企画・洋の器への誘い(ノリ タケ、大倉陶園)・日本の器を訪ねて(会津、土岐、 多治見、瀬戸、常滑、有田、波佐見、北陸三県、 三川内、鹿児島、沖縄)・テーブルセッティン グによる食空間提案アーカイブギャラリー(黒 柳徹子、田川啓二、東儀秀樹、石坂浩二、小倉 優子)・コンテスト(酒器、テーブルコーディネー ト)・配信コンテンツ(セミナー、特設ステージ) などに加え、ショップギャラリー(一般出展者 紹介コーナー、販売サイト)があり、各産地や 出展者のコーナーごとに映像が配信されてお り、いろいろなコーナーを見て回るには、リア ルの会場以上に時間と根気と忍耐が必要で、そ して何よりやきものやこの催事に対する興味・ 関心が無ければ長時間の閲覧は難しいと感じま した。

主催事務局発表の数字は、

全体 PV 数 1,129,954

*閲覧されたページの合計数。1 人が同ページを複数回表示した場合も、その都度カウントされます。

セッション数 54,024

*ユーザーがサイトに滞在(訪問→閲覧→離 脱まで)した回数。

ユーザー数 40,515

*サイトに訪問した、固有のユーザーを指し ます。

毎年東京ドームに30万人近い来場者がある イベントの初のオンライン開催の結果としてこ の数字をどう評価するのか、他産地の情報や主 催事務局の詳細報告を待ちたいと思います。

理事会議事要項

- ◇日 時 令和3年2月2日 正午
- ◇場 所 多治見美濃焼卸センター協同組合 大会議室
- ◇出席者 22名

竹内幸太郎 平松 英二 水野 祐次 倉知 隆行 鈴木 利明 若尾 欣悟 安藤 英利 斎藤 保治 荻原 明久 加藤万佐規 伊藤 浜三 久野 尚夫 毛利 圭介 水野 効治 加藤 忠則 伊藤威一郎 井澤 秀哉 加藤 誠 井澤 廣昭 中島 秀樹 加藤 智士 大嶽 好弘

(一) 理事長挨拶

- ①コロナの最近の様子は峠を越えて下りにかかったかなと、期待が出来そうな動きをしているが、まだまだ油断は許されない状況だと感じます。今日は「陶器まつり」をどうするか、「今年はなんとか開催したい」そういう方向で考えていきたい。それに対しいろんな考えが担当委員会から発表があると思うが、皆が納得できそして期待ができる、コロナ禍だからこそこういう祭ができるんだという、それが新しい、今までの形を変えていけるようなそんな祭ができたらありがたいと思っています。
- ②岐阜県知事選挙では大変お世話になり、ありがと うございました。お陰様で組合から推薦をさせて いただいた古田知事が 5 期目の当選を果たされ ました。皆様の協力に感謝致します。特に東濃地 区、多治見でも頑張っていただいて東濃の方にも これまで以上に目を向けていただけるものと期待 します。

(二) 議題

1. 審議事項

- ①組合脱退承認の件
- 申し出のあった2件について事務局より説明。
- ・(株)やましげ 加藤直彦(会外)廃業準備
- ・(株)山久製陶所 若尾寛幸(共栄会)会社事情 採決結果
- ・全員挙手にて承認。
- 2. 協議・報告事項
- ①委員会報告

総務委員会

今月は報告事項ありません。

第1事業委員会

・資材部にて、カートンは1本より低価格で販売 しています、宅配用の小サイズもシングル・ダ ブル取揃えております。ご利用・協力をよろし くお願いします。

第2事業委員会

・東京ドーム・テーブルウェアフェスティバル今回はオンライン開催、入場券を出席理事様に配布しております。2月5日より14日までの開催です。PC、スマホ、タブレットなどから入場可能で24時間閲覧できます。ぜひご覧下さい。一般入場は800円です。期間中何度でも入場できます。

第3事業委員会

・今月は報告事項ありません。

第4事業委員会

・陶器まつりについて(別記)

第5事業委員会

- ・うつわや多治見でオンライン陶器市開催中。ちゃわん芸術祭事業の最終イベント。PRのご協力をお願いします。
- ・3月20日、21日「パンと器と」多治見市観光協 会主催で開催。創造館で3店舗出店。ぜひご来 場下さい。
- 市役所前で行われていたフリーマーケットを5 月より創造館で開催。

- ・4月よりアニメ放送が始まる「やくならマグカップも」の等身大パネルを創造館前に設置。記念撮影スポットとして活用する計画。アニメに登場する「陶芸の神様」も展示予定。
- ・リンカリエ企画の組合オリジナル商品、第2弾 としてマグカップ2点と小皿揃い1組が完成。 宝図参加店舗と商談会開催し販売依頼の予定。

②多治見陶器まつりについて

- ・非常事態宣言が発出され更に期間が延長される 見込みの中、通常通りの開催は難しいと考えて おります。そこで分散型を計画。オリベストリ ートなどの道路は使わず市役所本庁舎前・陶都 創造館・松正さんの駐車場の3カ所に分散して 陶器廉売会場を設置して行う案で進行中。
- ・開催は、4月10日9時~17時・11日9時~16時。
- ・開催の可否は、国の定める指標を基準として判断する。1ヶ月前の3月10日の時点で決める予定。開催で進める場合もその後の状況により中止とすることもある。最終判断は1週間前の4月3日。
- ・会場を分散し小さくし各会場に消毒・検温など コロナ対策のポイントを設け、問題の無い人に は目印のリストバンドを着用してもらう。リス トバンドを装着した人は、どこかの会場で検温 済みと判断し別会場でのチェックは不要とする。 来場者名簿の作成までするかどうかは検討中。
- ・出店料は、組合員1万円として出店しやすく設定、できるだけ経費を掛けない運営に努める。 40店舗の出店を目標に募集。
- 広報については、できるだけ費用を掛けず有効 な方法を模索していく。イベント関係・飲食ブースは行わないまた、特設駐車場は用意せず、 シャトルバスの運行もしない。駐車場は、会場 周辺から駅周辺の既存のものを案内する。
- ・陶商祖祭は11日に陶祖祭と併せて平野公園で 神事のみ関係者にて行う予定。
- ・リアルと並行してWEB陶器まつりを開催。コロナ禍で前例の無い取組みにチャレンジするので柔軟性を持ったイベント設計が求められている。短期間での告知・準備が必要、知恵を出し合い前例を創っていきたい。

⑤組合事業部売上実績

1月分 資材部 5,440,846円

車 検 412,198円 通行料 347,228円 保険部 227,362円

証 紙 144,778円

⑥青年部報告

・青年部関係行事も多くが中止となっておりますが、青年中央会東濃版講習会が3月2日に開催されるとの案内がありました。セラミックパークMINOイベントホールに40名とZOOMで60名の募集で実施とのことです。

(三) その他

①次回定例理事会

3月2日(火)12:00~

多治見美濃焼卸センター 1F会議室

多治見の美濃焼ショップ 第28回 株式会社 山喜

美しい食器で楽しい食卓

住所 多治見市旭ヶ丘10丁目6-13 TEL 0572-27-7105(代)

市北部の旭ヶ丘にある多治見美濃焼卸センター。旭ヶ丘公園前の交差点から入ると、すぐ左 手に白い建物が目に留まります。株式会社山喜 です。昭和50年11月に卸センターがオープン した当初からこの場所で操業しています。

谷口稔昌社長は3代目。大阪の陶器商「辻 惣」の多治見支店長を務めていた祖父が、昭和 25年に豊岡町で谷口喜之助商店を立ち上げた のが始まりです。父の代に社名を「山喜」にあ らため、住吉町からこの場所に移りました。



主に業務用食器を取り扱い、割烹・料亭・居酒屋・ホテル・レストラン・喫茶店等の飲食業のプロのニーズに応える厳選された食器を全国に供給しています。そのため取り扱う商品の種類も和洋中はもとより、その枠を超えた新しい感性の器に至るまで豊富です。傾向として、業務用の定番であった会席用の需要が減り、変わって居酒屋向けや洋陶が主流になってきました。また、海外で日本料理店が増えるに伴い注文が来るようになり、それにも応じています。

もとは、見本を携えて全国各地の問屋に出向 いていましたが、今はカタログ販売が中心です。





一方、直接訪れる近隣の飲食店関係者も多くなり、それに応対できるような店構えになっています。

会社の玄関を入ると、オシャレな食器類が事務所前の明るいロビースペースを占めています。 主に個人客向けの商品です。新型コロナ感染症対策として導入された、販売促進事業「美濃焼GO」で訪れた買い物客にも好評でした。

2階には、広々としたショールームが設けられています。整然と置かれた展示台や棚には美濃焼の総てがと思われるほど多種多様の器が並びます。総てが見本用の一点もの。業務用を求める飲食関係者の期待に充分応えられるような品揃えになっています。その中でロゴマークがはいった食器が存在感を放ちます。希望により転写によるロゴ入れにも応じています。

フロアの一角には飲食店で見慣れたテーブル が置かれています。食器は、組合わせた時の見 栄えが大切なので、好みのものをトレイに乗せ テーブルに置いて確かめることが出来ます。食 器の雰囲気に合うよう、トレイも多種用意され ています。

ショールームの営業時間は、月から金曜日の 9:00から17:00まで。個人客も歓迎です。

後継者や原料土など将来の課題もあるが、美 濃は多様な消費者のニーズに対応できる産地な ので、現在の販売方法に留まることなく、様々 な方法を取り入れ幅広く展開していきたい、と 谷口社長は抱負を語ってくれました。

その一つとして、2月にSNS上で通販ショップを立ち上げ、新たな展開をスタートさせました。

リポーター 若尾正成

組合だより

Tajimi Pottery Wholesalers' Co-operative Association

¥多治見陶磁器卸商業協同組合●2021年2月号No.595

多治見市明治町2丁目4番地〒507-0841 電話0572(25)5588(代)FAX0572(25)388 8 E-mail:tatosho@ivy.ocn.ne.jp SINCE1894 創立明治27年

「博物館 多治見商人物語」 企画展

副理事長 鈴木利明

創造館3F 博物館・多治見商人物語は昨年11 月7日より「染付細密画 加藤五輔展」を行っています。

初回はオープン記念企画展「西浦家の陶業」で、西浦焼の紹介展としてはじまり、「美濃焼の加飾技術の進歩展」、「陶器将軍加藤助三郎展」、「美濃染付名品展」、前回の「加藤庄六展」、そして今回へと続いております。

今回は、多治見市文化財保護センターのご協力で、所蔵品のなかより五輔の代表作品を展示しております。

明治の初頭、毛筆の染付細密画加藤五輔は、第一回内国勧業博覧会での最高位「鳳紋賞」を獲得し、翌年パリ万博では「名誉賞」を受賞して、技術の高さを称されました。内国勧業博覧会は、明治の初め政府による伝統工芸品の輸出拡大を勧めるため、伝統産業の育成の一環として行われた博覧会です。世界に通じる商品を造る事を目標に、品質と技術の向上とを目指したようです。

その後、彼の作品は各博覧会や美術展、そして万国博覧会に出品してそれぞれ受賞が20世紀まで続いていました。また、美濃焼の名も内外に認められました。

展示品にデザイン画・図案があり、それは精密でしっかりとした筋でひかれています。図案制作には政府の指導が基にあったようです。図案の仕様は150年経った今もそんなに変わっていないようです。展示の五輔の図案は、その指導に沿って、特に輪郭を繊細・精密で毛筆よりは烏口で引いた線筋のようでした。当時には烏口の様な道具は無いので、毛筆で引いたと思いますがその筆使いその技術に感銘します。展示の陶器にはその細い線がデザイン画と同じようにしっ

かりと、また綺麗に生地に溶け込んでいました。 先ずはその綺麗さに驚き、興味を持ちました。

私的な事となりますが、私の家に明治から昭和初期の市之倉で造られた染付の茶器などが在るのに気づき調べてみました。祖父の代の品ですので(祖父は陶器商ではなく運輸関係のサラリーマンでその関係からの頂き物で)商売品ではないようです。

細い柄の丸煎茶、綺麗な呉須で海老と菊の柄の丸煎茶、八角で全面染付の向付が有りました。 それぞれ**写し、吉山などいろいろな印がありました。すべて染付で手書きの品です。もちろん五輔の品とは違いますが、線もしっかりとした綺麗な青い呉須の商品でした。すこし興味が湧いてきて、この品の事を調べたくなり、市之倉のメーカーを尋ねてみました。

各品を見てもらい、山水の煎茶は昭和初期のもだが手書きではなく線画はゴム印筆でダミでしあげてある。エビと菊の絵の煎茶は●●でした。自慢の八角の向付は、良いものだが美濃でした。自慢の八角の向付は、良いものだが美濃ない品の様でした。ないこと、「こんなに薄いの高が多くと、「こんなに薄いの成婚がした。有田は陶石で透光性が少ない。美濃・瀬戸は陶石より陶土分が多くまた土の成婚に長石が多く、これが透光性をあげている。らいました。最後に裏印に**写しとしてある煎茶を見てもらいました。内外全面に細かい幾何学的模様がしてあり、すぐにこれは**写してはなく、**造りと指摘されました。

しかし興味を持っていただき展示室に案内され、この煎茶とそっくりな小煎茶や杯を見せてもらいました。そして所蔵されている「清陶園加藤五輔」のポット・クリーマーそして湯冷ましも見せてもらい、裏まで触らしてもらいました。菊の絵の白抜きを見て私は自然と「これが墨弾き」と口から出ました。それを聞いた大将が、気を良くされたのか五輔の細密画の特徴を色々教えてくれました。一組の小煎茶を出し

てこられ見せていただきました。一つは細い線がボケずにしっかり出ていますが、一方の品は線が滲んでボケていました。高温で焼いても絵や細い線が滲まずボケない事、その技術を完成させたのが「陶工五輔」であるといわれました。土を寝かしたり、呉須を変えたり、素焼きにも一手間を加えたり、試作を繰り返すことで滲みとボケを無くす。この技術の完成が、呉須と土と釉の接点を極めて美濃の土の特徴を生かす「染付細密画」に繋がっていったと。



展示してある技法解説写真

後日、五輔窯のその後を知りたく、弊社と取引のある五助製陶所に電話で加藤五輔のことを尋ねたら、"うちがそうです"と言われ、おじゃまする事となりました。今は五輔より数えて6代目で、5代目もご健在です。弊社社とは20年余のお付き合いで色々面倒をみて貰っています。余分な事ばかり話して時間が過ぎてしまいました。次回詳しく御聞きします。

今回当組合だよりの記事の当番に当たり、理事長より組合に関連のある内容、今回の当博物館の展示で…と題材を決めてもらいプレッシャーを感じていました。初日、2日目と陶都創造館に行き展示品を隅々まで観てきました。その一つが「墨弾き」の言葉でした。偶然その一言が大将の気を引き話しが弾みました。展示をしつかり観たことは無駄でなかった。今回、多くの事を知る事が出来、また間違いも改める事もできました。

「美濃焼GO」や「陶器の宝図」などで多治見に陶器を求めて来られるお客さまが多くなりました。お客さまに多治見の事や陶器・美濃焼の事を聞かれても、返事や会話に困らないように、その一つの方法としてぜひ陶都創造館「博物館多治見商人物語」に足を運んでください。展示に興味もっていただき、引き出しを沢山持ってください。

追 伸

多治見商人物語・企画展に協力・支援をいた だいております多治見市文化財保護センターで は下記展示が始まっております。併せてご覧下 さい。」

企 画 展

信長朱印状と陶祖の窯

多治見市有形文化財として指定されている「信長朱印状」と「由来状」。朱印状を与えられた瀬戸の陶工加藤市左衛門が、朱印状を携え久尻へ移住し、その子孫に朱印状が伝えられたとされています。寛永 18 年(1641) には子孫景増が朱印状を持って多治見に移り住み、多治見の陶祖となりました。

本展覧会では信長発給の朱印状の目的を 見直すとともに、多く残る由来状を系統だて て分析し、朱印状が移動した経緯を古文書 史料から推察します。また陶祖の窯である久 尻および大平の窯出土品と、その後に移動 した多治見(平野)、高田、笠原の窯出土品 から各地の陶祖が製造したやきものを紹介し ます。

期間 令和3年1月18日**月**~6月18日**園** 場所 多治見市文化財保護センター展示室 (多治見市旭ヶ丘10丁目6-26)

時間 午前9時~午後5時

(最終入館:午後4時30分)

休館 土・日・祝日

※入場料無料

ちゃわん芸術祭 3rd ステージ

多治見 美濃焼 オンライン陶器市」 開催中

1月29日~2月15日まで うつわや多治見ECサイト にて

https://utsuwaya-tajimi.com/

情報発信・PR協力お願いします。

理事会議事要項

- ◇日 時 令和3年1月7日 17時
- ◇場 所 多治見市産業文化センター三階大会議室
- ◇出席者 29名

竹内幸太郎 平松 英二 水野 祐次 倉知 隆行鈴木 利明 若尾 欣悟 安藤 英利 斎藤 保治 坂崎 義雄 鈴木 正夫 加藤 貞美 荻原 明久 加藤万佐規 伊藤 浜三 久野 尚夫 毛利 圭介上村 大五 水野 効治 加藤 忠則 伊藤威一郎 井澤 秀哉 日比野昌司 加藤 誠 高木 正治 加藤 智士 大嶽 好弘

(各会会長) 生田 建治 清水英士

(日陶商連専務理事) 市川春一

(一) 理事長挨拶

- ①明けましておめでとうございます。昨年度はコロ ナ禍ということで大変な一年でした。コロナ禍の 中での一年間勉強させていただいた「行政とのタ イアップ」、市・県から本当によくご支援をいた だいた。多治見市では「美濃焼GO」が3,200万 円の予算が戴けてあのような時期に企画が出来た ということは本当に有難かったですし、10月の 「茶碗まつり」が無くなってしまったその時期に 陶都創造館で「ちゃわん芸術祭」を企画・実施、 11月3日にも多治見まつりは中止となったが、創 造館では頑張ってイベントを開催した。そうして 多陶商はこの1年間かつて無い行動をし、結果を 出せたかなと感じています。また、その間にはリ モートによる見本市とか展示会とか新しい経験も させていただきました。この1年間が今後いろん な形で実を結んでくる、今まで通りではダメなん だということをそれぞれが考えて行動していく、 そういう年にして是非成果を出していきたいと思 います。
- ②国際陶磁器フェスティバル美濃も本当は去年行われるはずだったが、1年間の延期となった。多陶商は全面的な支援をもって「セラミックバレー」を応援し陶磁器フェスティバルを成功させる、そういう考えでおりますので皆様のご理解をいただきたいと思います。

(二) 議題

1. 審議事項

1月理事会での審議事項はありませんでした。

2. 協議・報告事項

①委員会報告

総務委員会

・昨年末にキョウライへ提案する商品の提供をお願いし、現在8社よりカタログ等を事務局にいただいております。市担当者と協議しながら先方へ送る手配を進めて参ります。

第1事業委員会

・組合資材部で扱っているレギュラーカートンの デザインをセラミックバレーロゴに一新することで準備を進めています。ロゴの下に美濃焼・ 多治見も入れて全国のお客様に発信PRをして いきますので組合カートンの利用協力をお願い します。

第2事業委員会

・東京ドームTWF2月5日よりのオンライン開催、入場料800円です。是非入場しご覧になっ

て下さい。

第3事業委員会

組合だよりの充実に努めて参ります、記事を依頼した際はご協力をお願いします。

第4事業委員会

 ・春の陶器まつりが、主担当の事業。新美濃構想 実行委員会と今後のあり方について協議を始め ています。今回の開催の向けては、先月委員会 を開き、出店料の1万円減額やメーカーへの参 加呼びかけなど考えております。昨年中止して いるので今回は是非やりたい思いは強いが、コ ロナの状況を見て2月の理事会には判断したい。

第5事業委員会

- 1月29日より「ちゃわん芸術祭」3rdステージ としてECサイトでウェブ陶器市を開催します。
- ③キョウライ市との交易について
- ・総務委員会報告のとおり、8社からカタログ等 の提供あり。未だ未提出の方で提供できる方が あれば早急に組合事務局に提出をお願いします。

④多治見陶器まつりについて

- 第4事業委員会報告の内容を参照
- ・1月15日委員会を開催し、実施方法等検討します。
- ・新美濃構想実行委員会の動きの中で、リアル開催とバーチャル開催の両方を立ち上げる計画をしている。コロナの状況でリアルが仮にダメぞあってもバーチャルはなんとか実施したいと考えている。運賃もしくは割引の補助を準備している。リアルを準備している。リアルを準備しているが出していく、クラフトフェアの方、飲食の方とでありたがら、来年の陶器まつりたま現していきながら、来年の陶器まつりたるのうち出しを活かしていくというところで今のところは調整をしています。

⑤組合事業部売上実績

12月分 資材部 5,358,688円 車 検 67,982円 通行料 299,937円

保険部 173,323円 証 紙 118,044円

⑥青年部報告

 ・例年1月は新年会を兼ねて例会を開催するが、 今年は通常の会議のみで行う方向で相談中。自 社で仕事の中心を担っているメンバーが多く、 もしコロナに感染すれば仕事に支障が出るとの 思いも強く、今後の活動の仕方も考えていかな ければいけないというところです。

(三) その他

①業界動向

・メーカー見本市

多治見、土岐会場は検温・ビニール手袋着用な ど厳重なコロナ対策がされていた。参加メーカ ーは減少傾向。出展にあたり、力の入れように 温度差有り。ウェブで商品が見られる仕組みも あった。

②次回定例理事会

2月2日(火)12:00~

多治見市美濃焼ミュージアム 研修室

→多治見美濃焼卸センター 大会議室に変更